

お知らせ

2026年4月

令和8年度入学式を挙行しました 24名の新たな仲間が、志を胸に未来へ第一歩

令和8年4月4日、令和8年度入学式を挙行しました。今年度は、博士前期課程19名、博士後期課程5名の計24名が入学し、会場は新たな学びへの期待に包まれました。式典では、宮地学長から、本学が現場の問いを科学的に掘り下げ、その成果を地域社会へ還元する学びの場

であることを紹介するとともに、多様な職種や経験を持つ学生が互いに学び合い、静岡の医療と健康を支える人材へ成長することへの期待を寄せ、新入生一人ひとりを力強く励ましました。



入学生代表で挨拶する倉井華子さん



鈴木康友 知事 上川陽子 衆議院議員 中田次城 県議会副議長 本庶佑 顧問

ご来賓の皆さま (順不同)

- ・静岡県知事 鈴木康友様
- ・衆議院議員 上川陽子様
- ・静岡県議会副議長 中田次城様
- ・静岡県議会議員 厚生委員会委員長 鈴木啓嗣様
- ・静岡県議会議員 小長井由雄様
- ・静岡県議会議員 天野多美子様
- ・静岡県立農林環境専門職大学 学長 船田良様
- ・地方独立行政法人 静岡県立病院機構 理事長 兼 静岡県立子ども病院院長 坂本喜三郎様
- ・静岡県立総合病院院長 井上達秀様
- ・掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター院長 堀田喜裕様
- ・公益社団法人 静岡県薬剤師会会長 岡田国一様
- ・公益社団法人 静岡県看護協会会長 松本志保子様
- ・公益社団法人 静岡県放射線技師会会長 高橋誠様
- ・静岡県健康福祉部長 高須徹也様
- ・静岡市健康福祉部長 内館友理様
- ・富士市保健部長 増田晴美様
- ・一般社団法人 静岡県経営者協会 専務理事 鈴木良則様
- ・一般社団法人 静岡県医師会理事 竹内浩視様

来賓祝辞では、鈴木知事より、健康寿命の延伸や地域課題の解決に向け、データと科学的知見に基づく社会健康医学の重要性が語られました。上川陽子衆議院議員からは、女性の健康や医療の安定供給、難聴対策など幅広い健康政策に触れながら、誰一人取り残さない社会の実現に向けた学びへの期待が示されました。中田次城県議会副議長は、県民の健康を守る専門人材として活躍していくよう激励。本庶佑顧問からは、社会実装を見据えた学びと研究を通じ、静岡の医療基盤の強化に貢献することへの期待が寄せ

られました。式典は温かな拍手に包まれ、新入生の門出を祝う晴れやかで希望に満ちた場となりました。

令和7年度「学位記授与式」を挙行

令和8年3月28日には、令和7年度学位記授与式を挙行しました。昨年度、本学では公衆衛生や社会健康分野で専門性を磨いた大学院生21人が卒業し、うち3人は、本学で初となる博士後期課程の修了生でした。

静岡SPHニュースレター



静岡社会健康医学大学院大学
SHIZUOKA GRADUATE UNIVERSITY OF PUBLIC HEALTH

本学について

国際社会に貢献する「知と人材の拠点」へ

静岡SPH (School of Public Health)

本学は、2021年に開学した社会健康医学を学べる大学院大学です。公衆衛生学の5領域を基盤とし、医療ビッグデータ解析やゲノム医学、オーディオロジー(聴覚言語学)について学ぶことが可能で、県内の医師や看護師、また行政の保健師、管理栄養士などさまざまな職種の方が通っています。



TOPICS

令和7年度 社会人専門講座「SWING2026」開催

医療・ヘルスケア・介護領域における 静岡版 産・官・学連携の在り方を問う

令和8年2月28日、クーポール会館(静岡市葵区)にて、令和7年度社会人専門講座「SWING2026 (SHIZUOKA WELL-BEING INNOVATION GROUP)」を開催しました。本講座は、医療・ヘルスケア・介護領域における静岡版の産・官・学連携の在り方を考えることを目的に実施したものです。当日は、研究者、スタートアップ企業、自治体関係者、大学関係者など約50名が参加し、地域の健康と福祉を支える新たな連携の可能性について、多角的な議論が行われました。

プログラムでは、本学の山本精一郎教授や藤本修平准教授らが登壇し、医療・介護領域でDXが進みにくい要因をはじめ、現場での情報連携や制度、契約、セキュリティなどの課題を共有しました。続いて、産官学連携やオープンイノベーションを進めるうえで必要な目的意識、社会実装に向けた考え方、各

主催：静岡社会健康医学大学院大学
共催：静岡県 後援：(株)クロスメディシン

令和7年度 社会人専門講座

参加無料

SWING2026

SHIZUOKA WELL-BEING INNOVATION GROUP

～医療・ヘルスケア・介護領域における、静岡版 産・官・学連携の在り方を問う～

静岡版における医療・ヘルスケア・介護領域特化の革新的な産官学連携を追求するイベントです。地域の健康と福祉を共に創造し、持続可能なウェルビーイング社会の実現を目指す。研究・スタートアップ・企業・自治体・教育機関をお迎えし、静岡版の新しい連携モデルを議論する貴重な機会を提供します。

【参加対象者】 医療・ヘルスケア分野の研究者/介護関連企業の担当者/自治体の医療・福祉部門職員/大学等教育機関関係者/地域連携に関心のある方

2026. 2.28(土) 13:00-18:30

オンサイト開催
クーポール会館(静岡市葵区紺屋町2-22) 2階 2-A



藤本修平准教授



(株)クロスメディシン 中井洗我代表取締役・CEO

分野をつなぐ「翻訳者」の役割などについて意見が交わされました。また、富士市と藤枝市による自治体リバーズピッチでは、がん検診や特定健診の受診率向上といった地域課題が提示され、企業や研究機関との連携による解決の方向性を探りました。

参加者からは、予定調和ではない熱のある議論に刺激を受けたという声があり、産・官・学の各主体がそれぞれの役割を越えて協働する意義を確認する場となりました。今後も、静岡の地域課題に向き合い、研究と実践をつなぐ学びと対話の機会を創出してまいります。



医療・介護領域における課題共有と連携の可能性について議論が行われた



Webサイト

ご意見募集中

本ニュースレターに関するご意見・ご要望などお聞かせください。



ご記入フォーム

修了生と在学生在が交流し研究と実践の歩みを共有 初のホームカミングデーを開催

>> ホームカミングデー

学びを社会へ還元する交流の場に

本学初となるホームカミングデーを、令和8年3月7日に開催しました。宮地学長の挨拶に続き、博士前期課程2年生による令和7年度特別研究発表、修了生の近況報告を行いました。

修了生からは、医療、行政、看護、歯科保健など、それぞれの現場で本学での学びを活かす取り組みが紹介され、研究成果を地域や職場の課題解決につなげる実践、論文化への挑戦、博士後期課程での研究継続など、卒業後も

歩みを止めない姿が共有されました。

あわせて開催された交流会では、修了生と在学生在、教職員が近況や研究テーマについて、自由に意見を交わし、学年や職種を超えて語り合う時間となりました。専門や立場は異なっても、健康課題に向き合う思いは共通しています。

今回の交流をきっかけに、本学と修了生とのつながりをさらに育て、学び合いの場づくりを大切にしていきます。



宮地学長による大学の近況報告でホームカミングデーが開催



修了生、在学生在、教職員が学年や職種を超えて語り合いました



第1回
静岡SPH
HOME
COMING
DAY 2025
&同窓会

修了生、在学生在、教職員が集い、現地24人、オンライン19人の計43人が参加しました。

本学では、「社会健康医学」の学びを広く社会へ役立てられるよう、卒業後も客員研究員や客員教員として大学とつながりながら研究を継続できる制度を整えています。これからも社会の健康に貢献できる研究と実践を目指し、全力で励んでまいります。

県民とともに育む地域包括ケアの未来を見据え 幸福度を高める多職種連携の輪を広げる

>> 地域包括ケアフォーラム

看護と医療・介護がつなぐ地域のウェルビーイングを共に考える

令和8年4月25日、静岡県看護協会主催のイベント「地域包括ケアフォーラム」に本学も健康ミニ講演会の講師として協力しました。

当日は、多くの方が来場し、看護職を中心とした地域包括ケアの推進について理解を深めました。

健康ミニ講演会では、本学の溝田准教授が「小さな工夫で大きく変わる!筋力アップのための食事の秘訣」をテーマ

に、佐藤洋子講師が「歯みがきは裏切らない」をテーマに登壇し、日々の健康づくりについて参加者と一緒に学びました。

併せて実施された個別健康相談は、健康に関する疑問を解消しながら、県民の皆様とともに健康の大切さを身近に考える貴重な機会となりました。

今後も地域と連携し、県民の幸福度向上に貢献して参ります。



佐藤洋子講師

溝田友里准教授



吉岡貴史 准教授

■学位
博士(医学)、修士(専門職)
■兼任
慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 客員講師、昭和医科大学臨床疫学研究 兼任講師
■資格
医師、日本医師会認定産業医

研究テーマ

- ・健康の商業的決定要因(特にアルコール、タバコ、ギャンブル、市販薬など物質依存・行動嗜癖に関するもの)に関する社会疫学研究
- ・医薬品・医療機器の費用対効果研究
- ・泌尿器科(特化尿路結石症・排尿障害)の臨床疫学研究

研究の出発点と、これから目指すこと

これまで、医師の立場から臨床疫学研究、研究者の立場から疫学・健康経済学研究を発信してきました。研究の出発点はいつも、臨床現場で生まれた素朴な疑問です。「これってどういうことだろう」「こんな噂(伝承)があるけど本当かな」という問いが、私の研究を動かしてきました。

本学では特に、タバコやアルコールなど

健康に影響を与える企業の商業活動に関する研究に力を入れたいと考えています。嗜好品と私たちがどう共存していくか、企業活動と健康政策が調和しながら社会が発展するためのエビデンスを発信することが目標です。講演などを通じて、健康に関する知識を地域の皆さまと積極的に共有していきたいと思っています。



佐藤清香 講師

■学位
博士(生活科学)
■兼任
お茶の水女子大学生生活科学部教育研究協力員

研究テーマ

- ・地域在住高齢者のライフイベント(退職・罹患・災害等)が影響を与える食行動や栄養状態の変化に関する研究
- ・地域在住高齢者に対する行動科学に基づいた栄養教育
- ・地域活動の参加による社会的ネットワークと健康に関する研究
- ・しずおか研究(静岡多目的コホート研究事業)

研究の出発点と、これから目指すこと

地域に暮らす65歳以上の方々の健康を、食の面から支えるための研究に取り組んできました。きっかけは、有料老人ホームに入所した祖母が「まずい」と言って嚥下調整食を口にできなかった経験です。最期まで美味しいものを食べてほしい、そんな思いが、研究を続ける原点になっています。

疫学データや地域の方々の声をもとに、

健康寿命の延伸につながる食行動を探り、その実現のための環境づくりに取り組むことが、本学での目標です。

皆さんと直接お会いして、気になること、うまくいっていること、困っていることをじっくり聞かせていただきながら、いただいた声を研究や実践に着実に活かしていきたいと考えています。



新屋裕太 講師

■学位
博士(教育学)
■兼任
静岡県立総合病院 客員研究員、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター協力研究者

研究テーマ

- ・言語・認知機能の発達過程の個人差や、そのメカニズムの解明に関わる研究。特に、乳児期からの「ことば」の獲得と社会的環境(親子のコミュニケーション、地域・文化差、メディア環境など)の関わりに関する研究
- ・計算機モデル(AI)の手法や、ウェアラブルセンサによるビックデータを活用し、ハイリスク児や難聴児の早期評価・早期支援に繋げるための研究

研究の出発点と、これから目指すこと

もともと教師を志していましたが、学部生のとき、早産などによる早期環境経験の違いが神経発達リスクに関わることを知り、メカニズムや療育への関心から研究の道へ進みました。これまで、早産・低出生体重で生まれたお子さんの認知機能や、前言語期の音声発達について研究を重ねてきました。

難聴のあるお子さんの言語獲得に効果的な早期介入や環境因子の解明が、今後取り組みたいテーマです。新生児聴覚スクリーニングで難聴は早期発見できるようになりましたが、その後の支援にはエビデンスが不足しています。

地域の現場と連携し、発達の道筋を明らかにしながら支援づくりに貢献していきます。